

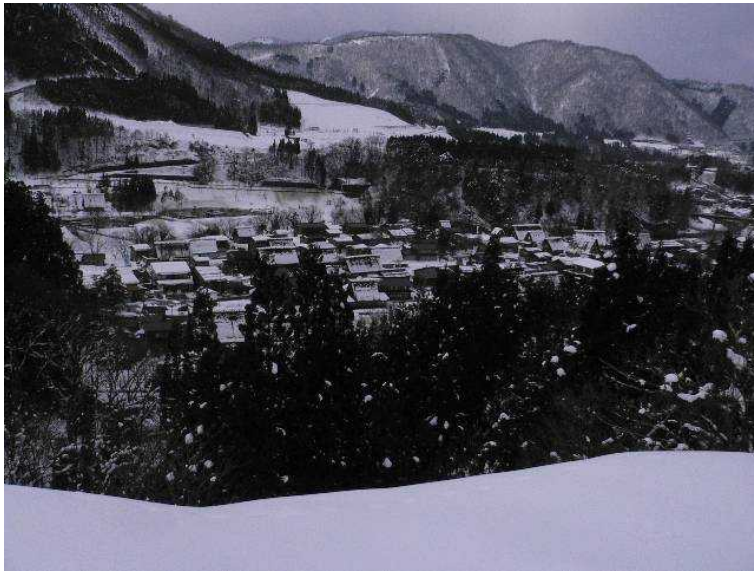
オールマウンテン復活山行

奥美濃 猿ヶ馬場山と日照岳

2008・2・10/11

T & N (記)

休眠状態のオールマウンテンのTさんから山スキーの誘いが来た。遠慮がちにいつでも、どこでもと言うものだった。私も歩きの仲間はいても、山スキーとなると限られる。例年、雪の便りがあると落ち着かなくなるが、大峰でも比良でも、わかんをつけて歩けばそれも楽しい。暖冬といいながら、大阪でも例年以上に雪が降る。我家から望める金剛山も先週は真っ白になり妻と金剛トンネルから歩いた。大賑わいの金剛山も南尾根のこのコースは



静かで、近場で金のかからない雪山遊びである。

さて、そのTさんらにさっそくメールを返した。この3連休も湖北の金糞岳を周遊する尾根を歩こうと思っていたが、歩き仲間も都合が悪く、今シーズン初めての山スキーを呼びかけた。猿ヶ馬場と日照岳を組み合わせて提案した。結局二人だけだった。3連休の初日は天気が悪く、その夕方出発にした。堺でも積雪があり、これは中止かなと思ったが決

行した。星田園地の側にある高台の高木邸はもっと雪が多かった。わざわざ遠くに行かなくてもそり遊びができそうなくらいだった。高速道路も通行止めで時間がかかった。荘川の道の駅に着いたのは11時だった。酒も飲まずに車中泊。

消化不良の山スキー！

5時起床の予定だったが、準備をして白川郷の登山口発は7:30になった。4人組が先行してそのトレースを追った。地図ではなんでもない地形に見えたが、積雪も多くて意外とややこしい。小雪がちらつき見通しも良くない。トレースがなかったら心もとない。今日はTさんが先を行き、私は後についた。雪原や小山があり、降りもそう楽しめそうにない。ゆっくり歩いたので先行パーティーに追



い着くはずがないと思っていたら、帰雲山で追いついた。彼らは展望がないのでここから引き返すと言う。この先は見通しが悪くトレースもない。これまで1本のトレースだったのに見苦しいワンデリングの後を残してしまった。何とか方向は定まったが、我々も頂上を目指すには時間もなかった。帰雲山に戻り下山開始とする。シールをはずして滑降を試みたが、わずかな登りに苦勞して又、シールをつける。快適な滑りはわずかで、林道に出てしまった。Tさんは谷を滑ったが、私は来た道のトレースを降って行った。白川郷の合掌造りの集落が見下ろせる。白川郷は観光客でいっぱいだった。夜にはライトアップがされるとかで、次々と観光バスや車が押し寄せていた。我々は混雑を避けて、平瀬の温泉で一浴びして道の駅で車中泊。

快晴と快感の山スキー！



翌日は快晴。御母衣ダムのトンネルの入り口を6：30に出発。すでに単独の車が1台あり、さっさと出発して行った。そのうち二人組がやってきて計3パーティー。今日は私が先に行く。単独には追いつかないが、トレーニングのつもりで飛ばした。あっという間にTさんと差がついてしまった。そんなことしたら、これからTさんが誘ってくれないかもと心配したが、天気もいいし、気にせずに登る。そのうち単独に追いついた。

無口な人だったが、道を譲られれば休むわけにも行かない。Tさんは後のパーティーに譲っていた。頂上には9：30に着いた。白山や三方崩山が呼んでいる。御岳も乗鞍も槍も剣も見える。しかし、じっと待っているのは寒いので一滑りして、Tさんを迎える。登り返して記念写真を撮り合い、滑り降りるがなかなか華麗には滑れない。何度も雪まみれになりながら降る。撫林の中を抜け、最後は谷を下った。前日だけでは消化不良だったが、天気も良くまずまずの滑降に満足する。12時には車のところに降りた。風呂に入りたいが、我慢して渋滞を避け、高速に乗った。おかげで夕方には大阪について早々と我家の風呂に入り、晩飯を食ったら睡魔が襲った。

